

会 議 録

会議の名称	平成29年度第4回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成29年9月14日(木) 午後7時00分～9時00分
開催場所	鶴瀬公民館 第3集会室
出席者	搦木道代委員、本間雄一委員、荒川照子委員、板橋三宏委員、岡野雅一委員、京谷恵子委員、佐々木眞理子委員、古澤立巳委員、吉田徹子委員、吉田廣子委員 事務局
欠席者	なし
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	1. 協議事項 (1) 家庭学習応援事業についておよび今後のスケジュールについて 2. 報告及び連絡事項
会議資料	定期刊行物
会議録確認	搦木道代委員

会 議 内 容 (要点記録)

1. 開 会

○議長あいさつ

2. 協議事項

(1) 家庭学習応援事業について

事務局より、家庭学習応援事業の概要を説明。その後、鶴瀬公民館で実施しているイブニングスクール（中学3年生・数学）を見学。

【議長】 見学して感じたことの意見を出していただきたい。

【委員】 自分の子どもが該当であれば、是非とも参加させたいと感じた。少人数で先生から指導を受けられ、また、経済的な負担も少なく、非常に魅力的と感じた。

【委員】 やっている内容は、受験レベルの非常に良い内容だと感じた。また、それぞれ自ら申し込みをして参加をしているので、前向きなのだと思う。一方で、教わっている内容をどれだけ理解しているのかというのが、わからない。「苦手」な生徒は、繰り返しやることで、次第に理解していくが、繰り返すことを定着していかなければ、理解につながらないので、図り方が難しいと感じた。

【委員】 この事業の参加の条件で、学力については条件をつけているのか。

【事務局】 申し込み要件で、学力については触れていない。「家庭で学習をする習慣のない児童・生徒」という条件をつけた。

【委員】 「基礎学力の定着」を掲げているが、どちらのクラスも内容が「中の上」くらいではないかと感じた。

【事務局】 最初の講義で、習熟度を図るテストを行っている。それを元にクラスを分けている。家庭学習の習慣がない児童生徒、また、学校以外で勉強を教わる機会のない児童生徒が対象となって、参加している。そのため、最初のテストの結果をみて、講師の先生方も、教え方などは模索しながらきている。使用教材は、栄光ゼミナールと同様のテキストを使用している。また、理解度については、宿題をどの程度行っているか、講義前の確認テストでの出来具合などで図っている。

【委員】 ベーシッククラスは非常にわかりやすく、丁寧な教え方で良かった。自分の経験からいうと、数学は、わからなかった部分がわかるようになると、その後の部分が、すっと自分の中に入ってくる。理解できるようになる。そのようなきっかけになれば、非常によいと思った。

【委員】 アドバンスクラスは、講師に生徒がついていけないように感じた。「わからない」を言える雰囲気づくりをすることが大事。

【委員】 業者の方の意向もあるだろうが、教育委員会の意向ときちんと合致しているかの確認がとても必要。業者はプロであるから、いろんなノウハウもあり、家庭での学習に返していく手法も考えながらやっているだろうとは思われる。

【委員】 中3でわからなくなってしまう子は、ひょっとしたら、中2や中1の内容か

らわからなくなっているのではないか。家庭学習を考えるのであれば、対象学年を下げた方がいいのではないか。

【委員】ベーシッククラスは、アドバイスが具体的にでていたので、非常に子どもたちは理解しているように感じた。

【委員】子どもたちのジャージや制服をみていて、鶴瀬公民館と水谷公民館の2か所だと、場所的に通うのが厳しい生徒もいるのではないかと感じた。

【委員】この事業は本当に魅力があると感じた。テキストもしっかりしているし、経済的負担も少ない。使用しているのは中3のテキストであったが、わからなくなっている子は、前の学年からわからなくなっている。中2や中1の内容に触れる必要がある。また、学校の授業と塾の授業は異なって良いと思っているが、「わからない子をわかるようにする」「ひとりひとりに目を配る」ということは、学校も塾も共通認識としてもたなくてはいけないと思っている。アドバンスクラスは10人クラスになっているので、もう少し生徒ひとりひとりに配慮する必要があるように感じた。ベーシックはとても丁寧で生徒たちの印象が異なった。

【委員】家庭学習をする習慣のない子ということ、中3になってやろうと思っても厳しいものがあるのではないか。もっと早い段階で、習慣化に重点をおくのであれば、中1も検討してはどうか。

【委員】居場所という意味で考えると、どの学年からのスタートでもいい。

【委員】中3で始めるのであれば、受験や進路があるので、何かしらの結果をだしてあげたいと思う。

【委員】学力があがったという結果、〇〇高校に入学できたという結果、を求めている事業ではないと思う。家庭にどのように返していくのか、それが求められている。

【委員】昔は、友達同士で教え合ったり、兄弟姉妹間で教え合ったりしていた。今はそういうのがない世相になっている。

【事務局】来月アンケートをとることになっている。子どもだけでなく、保護者も対象とする。

【委員】小学生を5年生にした理由は？

【事務局】小学校は4年生から内容が難しくなる。そのため、わからない感がでてくる5年生を対象とした。

【委員】他市町の事例をしてみると、ほとんどの所管は学校教育課になっている。そのため、学力に特化していると考えられるが、生涯学習課で行っていく意味づけを考えていく必要がある。

【事務局】学校と家庭という棲み分けで考えると、この事業は家庭寄りの事業。

【委員】少し前までは、小学校でも中学校でも宿題で家庭学習があった。今の子どもを地域でみてみると、少々落ち着きのない子どもが多くなっているように感じる。家庭で親が子どもを見ていない環境になってきている。「勉強は大事」と子どもに伝えることを、親に伝えることと、子どもが安心して集中できる環境づくりを提供することが、生涯学習課でやることの意味だと感じる。

【委員】家庭学習の習慣化を図るためには、家庭教育の重要性を感じる。その意味では、生涯学習課が行うことには納得がいく。家庭教育の支援について、これまで社会教育会議でもいろいろ協議をしてきた。家庭教育支援の背景には、

生活力や、学力、経済的なものや孤食などいろいろ出てきた。雑巾絞りから靴の揃え方まで、様々だったが、家庭教育支援の実践といういみで、この事業はとても意義があると感じている。

【委員】見学して思ったのは、参加している子たちが、もしこの事業がなかったら、どうしているんだろうと感じた。高校へいくために何かしないとと思って、やり方がわからない、どうすればいいのかと家で悩んでしまうのであれば、今日は中間テスト対策で多少難しい授業なのかもしれないが、来ている意味があると感じた。

【委員】7月から開始して、出席率がよいという話があった。これも今後の方向性を考えていくうえで大事な指標になると思う。

【事務局】事業開始時にオリエンテーションを行ったが、保護者の参加率も良かったため、今後家庭教育の支援に保護者も巻き込めるかたちを考えていきたい。

※会議でできたクラスの件案事項については、委託業者に要望として提出し、協議を行うことを確認。

(2) 今後の社会教育委員会議のスケジュールについて

議長より、1年目については、家庭学習応援事業について協議を行う。2月頃から、今期のテーマを改めて決め、協議・検討を行い、2年間の報告書としてまとめていく方向で進めたい意向を提案。委員全員、了承。

*次回について

会議を水谷公民館にて、実施。イブニングスクール（中学3年生・英語）の見学も兼ねる。

3. その他

次回会議日程

平成29年度第5回会議

日程：平成29年10月25日（水）午後7時～

場所：水谷公民館

4. 閉会

○副議長あいさつ